

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	KI	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	3	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期 間	2024 年 9 月 9 日～ 2025 年 6 月 28 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (60000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バスと徒歩) で、約 (30) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	3,0000 円	スーパーで買い出し、自炊。 時々ファストフード。
学用品購入費	0 円	教科書などはほぼ無し。
交通費	4,000 円	バス等の定期券 20€
交際費	10,000 円	友人との食事など
その他	40,000 円	旅費
合計	84,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ベネチア島内は観光地ということもあり夜中に出歩いても全く問題ないほど治安がいい。私が住んでいたメストレ地区は移民が多く、治安も悪かった。特に駅の地下通路や駅前が悪く、駅の近くで殺人事件があったと聞いたこともある。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**ベネチア**)

イタリア北東部ベネト州に位置する、島に築かれた都市。「水の都」としても知られる世界有数の観光地であり、世界文化遺産にも登録されている。

また、ベネチアは本島だけでなく、いくつかの島によって構成されていて、ガラスで有名なムラーノやベネチア映画祭が開催されるリドなど、それぞれ違った特徴を持っている。

島内は基本的に自転車も含めて車が使用できず、歴史的にはゴンドラが島民の足として利用されてきた。現在は水上バスやフェリーが主に利用されているが、ゴンドラも観光客向けに有名である。

現在のベネチアはオーバーツーリズム、水害、建造物の老朽化といった問題を抱えている。特に水害、アクア・アルタと呼ばれる高潮は普段の生活にも大きな影響を及ぼしている。島内の低い土地が浸水、時には水没し、通行にも支障をきたすことがある。将来はベネチア自体が水没してしまうことも懸念されている。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ベネチア大学	所在地	ベネチア
最寄空港	ベネチア・マルコポーロ空港	空港からの距離	約 10km
空港⇄大学	(バス) *移動手段		
学生数	約 23,000 人	留学生数	500 人以上
学部	Department of Economics Department of Philosophy and Cultural Heritage Department of Management Department of Environmental Sciences, Informatics and Statistics Department of Molecular Sciences and Nanosystems Department of Linguistics and Comparative Cultural Studies Department of Asian and North African Studies Department of Humanities *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Geography for Tourism Destinations	Geography for Tourism Destinations		
午後	Italian(会話) Buddhism	History of Italian Culture and Literature 日本語自由会 話	日本語自由会話 Italian(Module)	Italian(会話) 日本語自由会話 Italian(Module)	History of Italian Culture and Literature

② (2)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Italian(会話)			Italian(会話)	
午後	Latin		日本語自由会話 Italian(Module)	Latin Italian(Module)	

3. 履修内容

科目	ITALIAN LANGUAGE FOR EXCHANGE STUDENTS MODULE A: COMMUNICATION AND CULTURE – BEGINNER A1		
履修期間	1 st Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	留学生向けのイタリア語の授業。 会話の授業とコミュニケーションや言語学的なことを学ぶ講義型の授業の二種類を週2回ずつ受ける。		
成績	29/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	HISTORY OF ITALIAN CULTURE AND LITERATURE-FROM THE BEGINNING TO THE RENAISSANCE		
履修期間	1 st Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	留学生向けのイタリア文化、文学についての授業。イタリアという国についてやイタリア語の成り立ち、イタリア語や英単語の語源学など様々な角度から学んだ。後半はダンテの神曲について主に学んだ。 一斉授業だが少人数のため発言を求められることも度々あった。		
成績	26/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	BUDDHISM: CULTURE AND SOCIETY		
履修期間	1 st Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	仏教の成り立ちから、各地での仏教に関する歴史、現状について学ぶ授業。授業の後半は主に教授の専門である東南アジアの仏教について学んだ。 授業形態はスライドを用いて行われる講義型の一斉授業		
成績	19/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		

	担当教員	
--	------	--

科目	GEOGRAPHY FOR TOURISM DESTINATIONS		
履修期間	1 st Semester	単位数	9ECTS
授業内容／形態	地理学を軸に観光学を学ぶ授業。 主にベネチアがあるベネト州の観光をテーマにケーススタディやフィールドワーク、期末のグループプレゼンテーションを行った。 授業形態はスライドを用いた一斉授業。		
成績	26/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	INTRODUCTION TO LATIN FOR INTERNATIONAL STUDENTS		
履修期間	2 nd Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	留学生向けのラテン語の授業。 基本はスライドを用いた一斉授業で、文法の練習問題などのワークもあった。期末テストは島内にある実際の石碑を読むフィールドワークのようなものであった。		
成績	30/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	ITALIAN LANGUAGE FOR EXCHANGE STUDENTS – MODULE B: FORMS, STRUCTURES, AND MEANINGS – ELEMENTARY A2		
履修期間	2 nd Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	1st Semester に履修したイタリア語の授業の 1 つ上のクラス。会話の授業と講義型の授業が週 2 回ずつあることは変わらないが、講義型のクラスの内容がより言語学に寄ったものになっていた。		
成績	27/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		

	担当教員	
--	------	--

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この留学では、言語や学問的な学びはもちろん多くありましたが、それ以上に生きていく上で大切な力を身につけることができたと感じています。

まず、トラブルに対する耐性がかなり着きました。留学準備の段階から、大学の HP に載っている寮の申請期間が間違っていて実際の期間に間に合わなかったり、その結果寮の決定が遅れ、ビザの申請にも響くなど早速トラブルがありました。また、イタリアに到着してすぐ滞在許可証を申請するのですが、その受け取りが帰国直前の 6 月末と通知され、結局滞在許可証を受け取ることはできませんでした。他にも、6 月には寮で火災が発生し、捜査が入った結果寮自体が国に差し押さえられたことで他の寮に移らなければならない状況になるなど、最後までトラブルが続いていました。様々なトラブルがある中で、友人の力を借りたり、インターネットで解決策を探したりしてなんとか乗り越えることができました。これらの経験から、多少のことでは動じないメンタルができたと感じています。

また、生活力もついたと感じています。私はこれまでずっと実家暮らしで、今回の留学が初めての自立した生活でした。自分が動かないと何も進まない生活を経験し、やると決めたことをその場ですぐにやる行動力と先を見据える力がついたと思います。約 1 年間という限られた時間であったこともあり、その中で何をいつするのか、そのためにはいつまでに何をしなければならないのか、といったことを常に考えている生活でした。

留学中の旅行も、かけがえのない経験でした。ヨーロッパの有名な主要都市だけでなく、イタリア北部の小さな町やスロベニア、クロアチアといった近隣の国に行けたことも、ベネチアに留学しているからこそできた経験出会ったと思います。留学前は正直ほとんど知らなかったり興味がなかった場所を訪れるきっかけになり、人々や文化に触れることで自分の中の世界がかなり広がった気がしています。特にホステルを利用した旅はとても良い経験になったと考えています。ホステルには本当にいろいろな人がいて、彼らとの会話はとても興味深いものでした。様々な場所からそれぞれの物語があって今同じ場所にいるんだと考えると感動を覚えるようなこともありました。中にはあまり気持ちの良くないことを言う人もいましたが、それも世界を知ることなんだと今は思っています。この経験のおかげで初対面の人とも臆さずに話せるようになったように感じます。また、英語のスピーキングにも苦手意識がありましたが、ヨーロッパということもあり英語母語話者はあまり多くなかったため、互いの英語には多少寛容なコミュニケーションが多かったように思います。おかげで苦手意識はほとんどなくなりました。

このように、私はこの交換留学を通じて言語や学問を学んだだけでなく、人間的に大きく成長できたと実感しています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学を通して、以前よりも旅行や新しいことに挑戦することに興味を持つようになりました。初対面の人とのコミュニケーションも臆さずできるようになり、限られた時間の中でやりたいと思ったことはすぐに調べて実行するようにしていました。今後もこのチャレンジ精神を忘れずに常に新しいことを学ぶ姿勢を持ち続けたいと考えています。

また、言語学習を継続したいと思います。帰国してから英語やイタリア語を使う機会はほとんどなくなってしまいましたが、留学中にできた友人と連絡を続けたり、後期には新たに横浜市立大学に来る留学生もいるので彼らとも仲良くなりたいと考えています。そして留学の成果を可視化するために、TOEIC や IELTS といった試験を受けようと思っています。イタリア語に関してももう少し勉強し、年末にある CILS というテストで B2 の試験を目指そうと考えています。留学中に会った他の国の人々の言語にも興味を持ったので、その後はそういった言語も少しずつ学んでコミュニケーションの幅を広げていきたいです。

留学中に学んだことを今後も活かすだけでなく、今後も挑戦、学ぶ姿勢を忘れずに成長していきたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

日本人留学生の数も留学先を選ぶ上で大事なファクターであると感じています。ベネチア大学には日本語学科があるということもあり、日本人留学生が多くいました。特に私の滞在していた寮には多く滞在していました。これはこの留学の良かったところでもあり、反省点でもあります。私は、この留学の目的の一つとしてスピーキング能力の向上、そのために日本語が使えない状況に身を置く。ということを据えていました。しかし実際はほぼ毎日日本語で話してしまっていました。情報共有などができ、安心感もあるため良い点とも言えますが、やはり少しもったいないような気もしてしまいます。幸い私はルームメイトを自分と違う国籍の人にしてほしいと寮にあらかじめ伝えていたため、ルームメイトはトルコ人で、少なくとも彼と毎日英語で話すことはできていました。留学先でどこまで日本人と接するかは難しいところではありますが、私はホームシックにならなかったのは彼らの存在が大きいのと考えているので、悪いことではないと思います。

留学中については、やりたいと思ったことはすぐに行動に移すことが最も大事だと思います。約 1 年間しかない留学、惰性で過ごしていたらすぐに終わってしまいます。私は「今しかできないことから」と自分に言い聞かせて何でも挑戦するようにしていました。実際一生ものの経験や思い出もいくつも作ることができたと感じています。後悔の残らないよう、すぐに調べて行動することを徹底することをおすすめします。